



# 学校だより

1月号

令和3年1月6日

## 笑う門には福来る



校長 青木 和裕

毎日学校内を回り、子どもたちが真剣な表情で考えている姿、友達の考えに共感の眼差しを送る姿、子どものそばに寄り添って支援の言葉かけをしている教員の姿を見るのが、好きです。そして、学校内を回ることのもう一つの楽しみ、それは、北校舎4階西側の窓から見える、富士山の表情です。穏やかな天気にも恵まれた2021年の幕開け、雪をまとう富士山を見ていると、清らかな気持ちが出て、身が引き締まる思いです。

折しも1月4日、神奈川県を含む1都3県に、緊急事態宣言を再発令する方向で政府が検討に入ったという報道がなされました。先の見通しがもてない現状ではありますが、未来を担う子どもの健全な成長のために、今年も教職員一同、協働して指導・支援にあたります。保護者の皆様、地域の皆様、本年も、変わらぬご理解とご支援のほど、よろしく願いいたします。

「世界保健機関（WHO）は14日の記者会見で、サンタクロースは各国の配慮で新型コロナウイルスの隔離措置を免除されており『プレゼントを配るために世界中を移動することができる』とし、子供たちに安心して呼び掛けた。（中略）WHOがサンタと連絡をとったところ『とても元気で、大変そうにしていた』と近況を報告。サンタは『新型コロナへの免疫ができています』としつつも、対人距離の確保や、保護者の指示を守るようにとくぎを刺し、『クリスマスイブには早く寝てね』と求めた。」（神奈川新聞 令和2年12月16日朝刊）

新型コロナウイルスの対策や対応の最前線に立つWHOからの、世界中の子どもたち（保護者）へのメッセージを読み、温かい気持ち、笑顔になると同時に、こんな時代だからこそ、ユーモアの大切さ、子どもを守る大人の責務を痛感しました。

「笑顔には、幸せ醸成効果があるのだという。その驚異的パワーは、欧米の実に多くの実験によって実証されている。（中略）生物学的に見ても、笑顔の健康・幸福効果は非常に顕著だ。笑顔は、脳内物質のエンドルフィンやセロトニンを放出させる。エンドルフィン痛みを和らげ、病気に対する免疫力を高める。セロトニンは抗鬱効果があり、精神的な幸福感につながる。また、こうしたポジティブなホルモンの放出とともに、ストレスホルモンのコルチゾールを抑制する。このように笑顔はまさに、人間にとっての万能薬なのだ。孤独が伝染するように、笑顔も伝染する。幸せな顔の周りに人は集まる。笑顔は人とつながる最強の武器だ。」（「世界一孤独な日本のオジサン」岡本純子著 角川新書）

「私たちの体と心は、それぞれ別々のものではなく、深く関わり合っています。楽しいという心の動きが、えがおという体の動きに表れるのと同様に、体の動きも心の動きに働きかけるのです。何かいやなことがあったときは、このことを思い出して、鏡の前でにっこりえがおを作ってみるのもよいかもしれません。」（「笑うから楽しい」6年国語教科書 光村図書）

毎朝、西門で登校する子どもたちとあいさつを交わしています。にこっと微笑んで、きらきらした目で、あいさつをする子どもがいます。本当に幸せな気持ちになります。笑顔の輪がもっと広がり、二つ橋小学校に集う子どもたちはもちろん、保護者や地域の皆様、教職員が幸せな一年を過ごすことができるよう願っています。